

<目的> 日常生活における行動・判断基準となる生活意識、生活姿勢、価値観といった生活観は、社会的にたった一つではなく、個人によって異なった多様なものである。そこで本研究は多様な生活観を相対的に位置づけ、その類型を抽出し、さらに世代間、地域間の違いについて考察した。

<方法> 対象は農家の35歳以下の主婦190人。25の質問項目から得られた133の回答項目の単純集計の結果反応頻度が25~75%のものを生活観を表すカテゴリーとし、うち背反するカテゴリーはどちらか一方を選択し、つごう29カテゴリーについて数量化Ⅲ類を使って統計処理し、サンプル散布図を確認した。

<結果> 統計処理の結果、図のような構造図を得た。軸の意味を解釈すると、I軸 右側：集団重視・調和志向、左側：個人重視・自立志向、II軸 上側：状況対応志向 下側：原則回帰志向が読みとられ、こららを組み合わせて、生活観の類型と考えることができる。また世代や地域の違いにもかかわらず、生活観の構造は共通することを確かめた。

